

ごたんだ
五反田遺跡

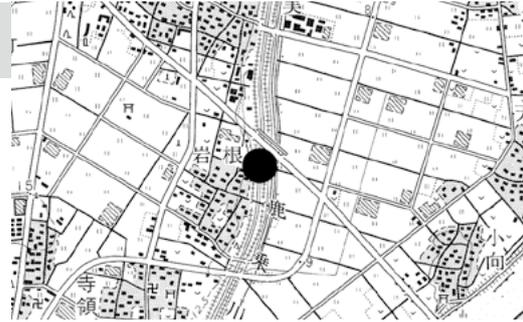
所在地 安城市小川町五反田・岩根下
(北緯34度54分13秒 東経137度5分43秒)

調査理由 床上浸水対策特別緊急事業(鹿乗川)

調査期間 平成25年5月～平成25年6月

調査面積 450㎡

担当者 酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 調査は一般河川鹿乗川改修工事に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成22年度に調査を行い、今回を含めた総調査総面積は2170㎡である。今年度は、平成22年度調査区西側に位置する鹿乗川と導水路の間の調査を行った。

立地と環境 本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成12年より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。鹿乗川は碧海台地東辺を直線的に南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。旧鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、本遺跡及び惣作遺跡、寄島遺跡等で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開する。標高は5～6mである。平成22年度の調査では上面で近世および中世の遺構が検出され、下面では弥生時代後期から古墳時代初めの時期の方形周溝墓などの遺構が検出されている。

調査の概要 今回の調査では、上下2面の調査を行った。調査区は鹿乗川と導水路の間の現堤防下に当たり、鹿乗川に近接している。上面は堤防の盛り土下の近代の水田耕作土層下面で検出を行い、明確な遺構は確認されなかった。下面は中世の耕作土層下にある遺物包含層である黒色土層で行い、明確な遺構は確認されなかった。包含層下は灰色シルトの基盤面となる。調査区の南部の大部分は現鹿乗川に沿う旧河道の縁辺に位置し、基盤面は南に緩やかに下降する。調査区北端で標高約6m、南端で同5.5mである。北端を除いて、包含層上に河道を埋積する湿地性の堆積層があり、南ほど厚くなる。湿地性の堆積物からは平安時代から中世の灰釉陶器、山茶碗などの遺物が少量出土する。黒色土層からは古墳時代から奈良時代の遺物が出土した。主な遺物としては、奈良時代の須恵器、古墳時代前半の土師器が検出された。

まとめ 今年度の調査は、大部分が旧河道の遺物包含層の調査となり、遺構は確認されなかった。調査区の北部では、平成22年度の調査区とほぼ同じ標高で安定した水平な遺物包含層が検出され、古墳時代旧河道の位置が類推できる情報が得られたことにより、今後は遺跡の展開について検討することができるものと考えられる。

(酒井俊彦)



調査区全景（南より）



調査区全景（北より）



近世杭列（南より）



旧河道全景（北より）

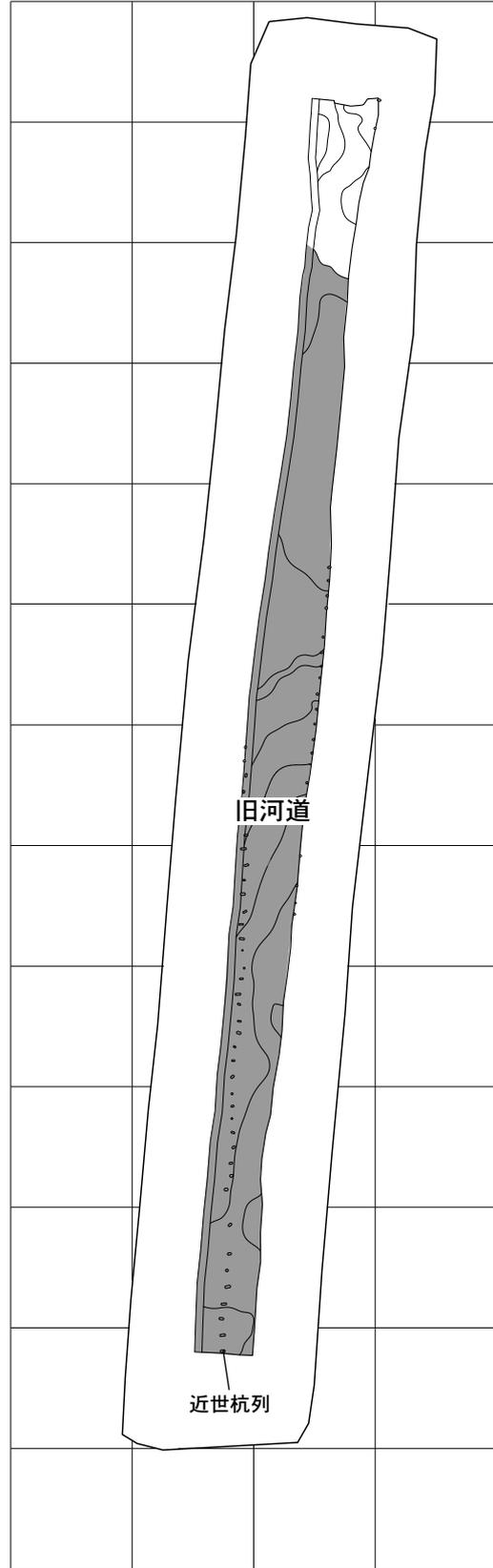


図1 遺構全体図 (1:300)